

# 情報発信地の発展

江戸時代、世のなかのできごとを伝えたのは、かわら版(→p.35)だった。明治になると外国をまねて新聞がつけられるようになった。1870(明治3)年に日本初の日刊紙「横浜毎日新聞」が横浜で発売され、1872(明治5)年には銀座初の日刊紙「日新真事誌」が発刊された。

新聞も文明開化で日本に入ってきたものなのね!



## <銀座れんが街に集まる新聞社>

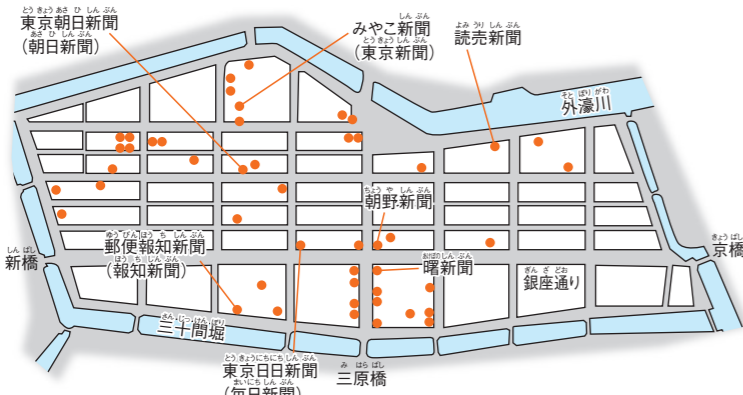
銀座れんが街(→p.74)は西洋風の建物が建ち並んでいたが、日本人にはなじみがないため空き家が多かった。しかし銀座は、新橋停車場(→p.84)や政府機関の集まる丸の内、築地外国人居留地(→p.72)に近くて情報が集まりやすい場所だったことから、多くの新聞社が集まってきた。



**朝野新聞社**  
政治記事を多くあつかう新聞社。銀座四丁目交差点角地(現・和光)にある建物に入っていた。その建物には最初「日新真事誌」が入っていたが廃刊になったため、1876(明治9)年に朝野新聞社が入った。

### ●明治20年代に銀座にあった新聞社

「日新真事誌」が発刊されたあと、次々と新聞が発刊され、そのほとんどが、銀座れんが街に集まってきた新聞社から発行された。銀座は新聞社街とよばれるようになり、明治20年代まで続いた。



\*●は創刊、移転してきたときの新聞社の位置を示す。( )内は現在の名称。

こんなにたくさんの新聞社が銀座にあったんだね!



「日新真事誌」銀座初の日刊紙。イギリスから日本にやって来たブラックという人が創刊した。



## 出かけて新聞を読んだ

明治初期、家で新聞を取っている人は少なかった。そのため人々は、各地に設けられた新聞縦覧所で新聞を読んだ。



**新聞縦覧所**  
自由に新聞を読むことができたが、有料のところと無料のところがあった。複数の新聞を1か所でまとめて読むことができるので、人々から重宝された。上の絵は、そのなかでも立派なところを表した。

## 新聞で宣伝した

新聞は、たくさんの人の目にふれるため、商品の宣伝にうってつけだった。新聞記者であり実業家でもあった岸田吟香は、自らが記者として記事を書いていた「東京日日新聞」に、実業家として売っていた目薬の広告をのせて売り上げ向上に活用した。

所發調御ら附  
賣賣認見言  
所所認認近胃  
同同池所御來飲  
水本座本の腹東  
本二舖丁仲日本  
日町一橋  
岸守地  
田田  
吟兵  
香衛  
義



**精銚水**  
岸田吟香が販売していた目薬。写真は空きびん。



あっ! 右のおじさんが新聞を売っているよ。

## 鉄道で地方へ配達した



鉄道(→p.84)が開通すると、地方への配達が可能になった。新橋駅構内では新聞を売っていた。

## 錦絵で情報を伝える



世のなかのできごとは、新聞のほか錦絵新聞にもなった。新聞社とは関係なく、話題になりそうなできごとをわかりやすい文章と錦絵(→p.61)でまとめて売った。

テレビもラジオもない時代、新聞や錦絵新聞は人々のだいじな情報源だったんだね。



**錦絵新聞**  
錦絵と新聞が結びついて生まれたもの。左の錦絵新聞は、警察官が3人の強盗をつかまえた事件を伝えている。

## 新聞記者のはじまり

日本で新聞がつけられはじめると、新聞にのせるための記事を書いたり、まとめたりする新聞記者という仕事が生れた。

画像は非公開です。

**戦争取材する新聞記者**  
1877(明治10)年の西南戦争取材する東京日日新聞の福地桜痴記者をえがいた錦絵新聞。記者の後ろには武器を持った軍隊もえがかれている。

